

一療育研修一

支部（宮城）

講師 市川 義直

参加人数（30名）

講師 伊藤 清市

場所 独立行政法人国立病院機構

西多賀病院サークル室

講演1 西多賀ワークキャンパス移転構想

「西多賀ワークキャンパス」は昭和41年6月開園した社会就労センターで、現在は入所70名通所6名に対して、入所者70名通所者5名である。作業内容は、ワープロ・パソコン・オフセット印刷製本・電気組立等を行っている。

施設が著しく老朽化したことと併せて、土砂災害危険区域にあるため、改築が出来ないことから、太白区袋原に移転し、「仙台ワークキャンパス」として新築することになった。

その移転構想、新事業内容は日中生活の場として、就労継続支援事業B型30名・生活介護事業30名・就労移行支援事業10名。夜間生活の場として、施設入所支援35名・福祉ホーム30名となる。

移転を検討するに当たり、障害者自立支援法に基づく新事業について、色々な制度上の矛盾と壁に突き当たった。それを何とかクリアして、来年4月開設に向け工事を進めているとの講演があった。

講演2 仙台のバリアフリーの現況

昭和46年 西多賀の車いす利用の障害者とそのボランティアが、仙台市内の公共施設を点検し、階段のスロープ化や障害者用トイレ等の設置を仙台市に要望してそれが改善された。これが福祉のまちづくりのはじまりである。

仙台市は昭和48年「身体障害者福祉モデル都市」に全国第1号に指定された。昭和60年仙台市福祉の街づくり環境整備指針。平成8年宮城県だれもが住みよい福祉のまちづくり条例・仙台市ひとにやさしいまちづくり条例。平成15年仙台市交通バリアフリー基本構想策定。等の施策がなされた。

現況は、バリアフリー・ユニバーサルデザインの意識も進み商店街でも改善されて来ているが、障害者の視点から見ると、公共施設でも改善すべき所が数多くある。その例をスライドで紹介する。

「健康づくりサポート・おもてなしの店」等が出来た。最後に◆公共交通機関を利用しやすく◆視点を変えたバリアフリーを◆ひとりひとりが声をあげる。との講演があった。

一療育研修一

支部（宮城）

講師 市川 義直
講師 伊藤 清市

参加人数（30名）
場所 独立行政法人国立病院機構
西多賀病院サークル室



実施を終えて(感想等)

今回開催された療育研修会において、社会福祉法人 共生福祉会常務理事の市川先生より「西多賀ワークキャンパス移転構想」、また、福祉マップ宮城代表の伊藤先生より「仙台のバリアフリーの現況」についてお話がありました。

在宅の障害者である私にとっては、市川先生のお話の内容は参考にはなったもののいまひとつピンと来ませんでした。ただ一人暮らしの私にとっては今後の自分の行く末に一抹の不安を感じました。

また、伊藤先生のバリアフリーのお話は、自分の実生活に直接関連することなので共感すると共に大変勉強になりました。

ただ、一障害者として感じる事は「障害者自立支援法」や「バリアフリー」に関する行政の現在の緒施策や福祉関係の法体系整備はあくまでも国なり地方公共団体のいわゆる行政サイドの目線で推し進められており、もっと高齢者や障害者の目線で行って欲しいと言う意を強くしました。

日本筋ジス協会宮城県支部 鈴木英直